

鹿富士が大関昇進となれば、鹿賀乃戸部屋からは鹿皇以来のことで、一時期、幕内力士がいなくなった鹿賀乃戸部屋としては悲願なるかといったところだろう。

これに加えて、大関候補に名乗りを上げるのは、今場所8勝をあげた元大関の鬼ヶ嶽と綱乃花だ。鬼ヶ嶽は前々出場の出足が復活して、先場所の7勝に続き今場所は8勝勝って来場所は関脇に昇進するものと思われ、十両まで落ちた男が再大関に向けて復活の狼煙をあげた。

友砂親方が「大関、横綱！」と期待する綱乃花は順調に力をつけ、先場所の8勝に続いて今場所も8勝勝ってそのポテンシャルを發揮した。来場所は三役への昇進が確実で、いよいよ上位すべてと対戦する場所となるだけに真価が問われるだけに、師匠の友砂親方も「どこまでやるから楽しみに！」と期待を膨らませている。

その一方で、大関候補の一番手と言われている関脇出羽翼が3勝8敗と大負けして、3場所守った三役の座を明け渡すことになった。勝間田部屋は出羽翼を筆頭に幕内に9人いるが、来場所は三役不在の場所となる。幕内力士の数は多いが「大関を指せる力士が誰なのかがわからない」というのが勝間田親方の悩みどころだ。

九日目まで7勝2敗と優勝争いを演じ、敢闘賞を受賞した入幕2場所目の西神門。前頭十二枚目でありながら八日目に大関大神楽と対戦、以降3日連続で三役との対戦となった。敗れ終えたのは潜在能力を感じさせる。来場



西神門〇(押し出し) ●鹿富士



綱乃花〇(寄り切り) ●朱雀湖



鬼ヶ嶽〇(押し倒し) ●出羽翼

予定。乞うご期待。(錦風)

来場所は千代鈴の横綱昇進で、3横綱1大関の番付となる。初土俵以来、負け越し知らずで、通算勝率0・826、幕内勝率0・779と高勝率で角界最高位に上りつめた大器が横綱としてどのような相撲を見せるか、土俵入りも含め楽しみだ。千代鈴の土俵入りは雲竜型になる模様。

いろいろな議論があったものの、最終的に承認された。これにより、来場所の錦風部屋の関取は横綱若ノ嶋一人となり、また、本場所土俵で若ノ嶋と佐賀ノ海の対戦が見られることになる。若ノ嶋は「佐賀関の移籍は残念だが、来場所での対戦が楽しみ」と語った。

鬼ヶ嶽の活躍に刺激されたか、同門の元大関照の王が5連敗のあと6連勝して勝ち越し、気が吐いた。来場所は久しぶりに横綱大関と対戦する位置に上がってきそう、楽しみがな取組が見られそう。



照の王〇(引き落し) ●玄武岩

春日根親方談 「先代親方の西の海が昭和51年9月第44回に初土俵を踏んで以来46年間、途中力士が途切れたこともありましたが、歴代理事長及び皆様の暖かいご支援のもと春日根部屋を継続することができました。そしてついに来場所では愛弟子千代鈴が部屋創設以来初めて悲願の横綱へと昇進することになりました。

桃乃洲、駒波、蛭国、3人が優勝争いを繰り広げる中、ただ一人白星をあげて2敗を守ったのは駒波。敗れた桃乃洲と蛭国は3敗を維持した。剣将、渡海、御嶽灘とともに一差で追う展開となつて千秋楽を迎えた。

御嶽灘 五人戦を制す 十両は3敗で5人による決定戦となり、激戦を制した伏兵の御嶽灘が新十両で見事に優勝を飾った。

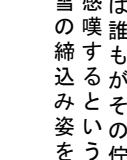
春日根親方 更なる活躍を誓う 「これからは横綱として恥じるような相撲を取らざるよう更なる指導を徹底して参ります。どうぞ引き続きご指導、鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。」

朝日松親方が見つめる中、互角の立ち合いから攻防を制した渡海が、押し倒して駒波を破り、決定戦決着を確定させた。

他の3敗勢では剣将が幕内の生駒山に敗れて唯一の脱落、これにより5人による決定戦にもつれ込んだ。抽選の結果、桃乃洲の最初の対戦が回避され、まずは駒波と御嶽灘が対戦。本割で敗れている駒波はリベンジを期したが、またしても御嶽灘に軍配。その勢いを駆って桃乃洲と渡海を下した蛭国を引き落としに破って御嶽灘が優勝をもち取った。

場所前は徳ノ富士に一心に期待をかけていた桐壺親方だったが、御嶽灘の優勝に「全くこれぼっちも期待しなかつたんだけど、わかんないもんだね」と嬉しい誤算となったが、来場所その真価が問われそう。

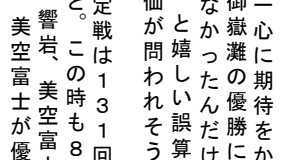
十両の5人による決定戦は131回場所以来、実に9年ぶりのこと。この時も8勝3敗で磯昇、名護、琴乃王、響岩、美空富士の5人による決定戦となり、美空富士が優勝している。



練馬国技館初参戦の住之江親方(左) 右は北海道から参加の霧ヶ浜親方



駒波〇(押し倒し) ●西富士



蛭国●(引き落し)〇御嶽灘



渡海〇(押し倒し) ●駒波